

# はまなか

# 議会だより

NO155

令和8年1月15日発行

## 12月定例会

予算 審議 二 質	商工振興に要する補助は 3人の議員が町政を問う	3P~5P 7P~9P
	「浜中学」を学んで (船柳 志琉 さん) 「吉祥」 (上野 未結 さん)	10P

### 表紙の写真

霧多布湿原センターから  
見える日の出の風景。

本年も美しい自然に恵ま  
れた本町のさらなる発展と  
皆さまのご健勝を心よりご  
祈念いたします。

撮影者…地域おこし協力隊  
曾根原 麻由

撮影日…12月13日

# 年頭にあたって

浜中町議会議長

落 合 俊 雄



町民の皆様、新年あけましておめでとうございます。輝かしい令和8年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年の国内政治においては、7月に実施された参議院選挙が前年の衆議院選挙に続き、政権与党が過半数を下回る結果となりました。さらにはこれまで長年連立を組んできた公明党が離れ、新たに日本維新の会との連立合意のもと、日本初の女性内閣総理大臣が誕生しました。国民の期待が寄せられる中での船出となりましたが、あらためて責任ある政治のあり方が問われる状況にあります。

国際的には4年目となるロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとハマスの紛争は、アメリカが仲介に乗り出してはいるものの先が見えない情勢に加え、トランプ関税の発動により世界経済の不透明感から厳しさが増しています。

国内的には昨年7月にカムチャツカ半島沖を震源とする巨大地震が発生し、太平洋沿岸に津波警報が発令され、本町でも最大60cmの津波が観測されましたが、人的・物的被害はありませんでした。改めて普段から防災対策への備えを確認することが大切であると感じました。

また、全国各地で山火事を含め火災が多発したほか、餌不足から熊の出没が相次ぎ、多数の人的被害が生じました。さらに令和の米騒動とも言える状況で米価格の高騰が続くなど、物価の上昇が生活

を圧迫していることも含め、国民が安心と将来への希望を持つことができる施策を期待したいところです。

本町の基幹産業である酪農業は昨年4月以降、生乳生産量は前年を上回る状況の中で8月には乳価の引き上げがなされましたが、一方で牛乳・乳製品の販売価格も上昇したことによる消費減退のリスクもあるなど手放しでは喜べないこともあり、今後の需給動向が注目されるところです。

一方、漁業においては太宗漁業であるコンブ漁は浜中漁協26日、散布漁協28日の出漁となり、昨年より出漁日数も増え、生産量、価路においても昨年を上回った一方、鮭定置網漁においては記録的な不漁となり厳しい一年となりました。近年の漁業を取り巻く環境は、地球温暖化による環境変化が大きく影響を及ぼすことから、この一年が天候に恵まれ、順調な出漁と豊漁を願うところです。

当議会においては、昨年6月に1名の議員が辞職し、議会運営さらには委員会活動に厳しさを増してはいるものの、解決すべき課題が山積する中、今後もさらなる活性化を図り、町民の皆様の負託に応えるため総力を傾けることで職責を全うしたいと決意しております。

つきましては、町民の皆様からのご理解とご協力を願いつつ、本年が皆様にとって最良の年でありますよう心からご祈念申し上げ新年のご挨拶いたします。

## 浜中町議会

議長 落合俊雄

副議長 成田良雄

議員 川村義春

同 渡部貴士

同 田甫哲朗

同 三上浅雄

同 三膳時子

同 渡邊秀治

同 谷村敦



# 補正予算審議から

**12月**  
**定例会**  
10日～11日



6月補正で地域経済活性化補助を活用し製作されたアイスクリームカップ

## 商工振興に要する補助は

12月定例会が10日・11日の2日間の日程で開かれ、一般会計および各会計の補正と条例改正など12議案が上程され、いずれも原案のとおり可決しました。  
一般会計は12億612万円を追加し、予算総額112億4711万円となりました。  
また、一般質問では、3人の議員が登壇しました。

**問** 商工振興のための補助として、地域経済活性化促進奨励補助3万円と小規模事業継続支援補助152万円の補正であるがそれぞれの内容は。

小規模事業継続支援補助は事業者3件分で  
○作業場屋根改修費18万円  
○高圧温水洗浄機購入費43万円  
○灯油計量機購入費90万円  
いずれも事業費の2分の1である。

**答** 地域経済活性化促進奨励補助は事業者1件分で  
○ドッグフード製造用粉碎機購入費3万円

## 企業版ふるさと納税の状況は

**問** 企業版ふるさと納税支援業務委託料11万円の内容と同基金積立金329万円の詳細は。

町は、寄付実績額の22%を委託料として支払うもので、9月以降に釧路市と札幌市の3企業から計50万円の寄付を受けたことから委託料11万円を計上した。

**答** 支援業務委託契約を地方自治体との連携に特化した業務を行う福岡県の企業と締結した。契約内容は、企業が浜中町の魅力やプロジェクトなどを紹介するパンフレットを作成し、応援してくれそうな企業に郵送や営業活動を実施する。

基金積立金の内容は、前述の50万円のほか、町独自の努力による3企業からの寄付金300万円（千葉県・熊本県・釧路市各100万円）の計350万円から委託料ほかを差し引いた329万円を基金に積み立てる。

## 新川西・仲の浜地区 津波避難タワーの予算概要は



令和8年3月に利用開始予定の琵琶瀬地区避難タワー

**問** 令和8年度建設予定の新川西・仲の浜地区津波避難タワーの予算が7年度計上となった理由は。

**答** 事業費の予算額は、避難施設整備工事監理業務委

託料660万円、避難施設整備工事費1億3390万円である。事業費の本町負担分が有利な「補正予算債」を活用するために7年度で予算計上した。

## 「郷土読本はまなか」とは

**問** 小学校教育振興費の印刷製本費63万円の内容は。

**答** 小学3年生の社会科で使用する「郷土読本はまなか」は令和2年度に作成し

ているが、今後不足が発生する見込みから100部を追加印刷する。

今後使用する人数は、令和8年度37人・9年度35人・10年度40人の見込みである。



## その他の主な歳出（一般会計）

歳 出 の 内 訳	金 額
漁業振興整備事業補助(浜中漁協荷揚げタンク購入)	2 8 2 0 万円
渡散布浚渫土置場道路整備事業	1 3 0 万円
ヒグマ駆除従事者報酬	7 3 万円



## 賃貸住宅建設補助の内容は

**問** 民間賃貸住宅等建設促進助成金は当初予算1200万円であった。652万円執行されたが建設物件の内容は。

**答** 令和7年度の申請受付期間は7月31日で終了し、今年度の申請件数は1件で

あった。助成金額は652万円、当初予算1200万円から差し引いた残額548万円を減額補正した。物件の内容は、農業法人が同敷地内に従業員宿舎を建設するもので、木造2階建て1LDK4戸、床面積は253.38㎡。

## 専決処分を承認

11月1日の暴風雨により3件の被害が発生した。緊急対応が必要なことから11月10日付けの専決処分（一般会計補正予算第6号）を質疑を経て承認した。

**○茶内1号幹線道路の復旧**  
西門朱別地区町道の一部が陥没したこと、復旧に係る道路実施設計委託料582万円。

なお、同道路は日々の営農活動や生乳集荷業務に多大な影響があることから、仮復旧工事を2265万円で実施し、令和8年6月以降に本復旧工事を実施する計画である。

### ○倒木撤去に要する費用

曹溪寺（榊町）裏の町有林で3本の倒木があり、屋根の一部に被害が生じた。大型クレーンを要する撤去経費で111万円。なお、屋根の補修は寺が加入する建物更生保険で対応。また、今後倒木の恐れが

### ○保育所物置の更新

霧多布保育所の園庭に設置していた物置（32年経過）が倒壊したこと、新たに物置を39万円で購入する。なお、この度の財源は、3件とも災害復旧事業の要件に該当しないことから、一般財源となる。

## 議会映像配信



議会映像配信QRコード



陥没した茶内1号幹線道路

令和6年度の助成を活用し建設された賃貸住宅



9月定例会で設置された決算審査特別委員会（渡部貴士委員長）は、9月30日に質問事項を抽出し、10月30・31日に各担当課に説明を求め、質疑を行った。審査の結果、各会計決算を認定すべきものと決した。

なお、審査の過程で出された留意点を口頭で報告した。

## 委員長の口頭報告

### ①解体が進まない空き家の対応について

空き家の総数と不良空き家の件数および解体は、浜中町空き家等対策計画に基いて毎年空き家の調査を実施している。令和6年度は調査した空き家113件のうち8件除却、5件使用中、13件が危険と判定された。

その中には、老朽化が著しく倒壊の危険があるもの

の所有者による解体が進まない物件もある。

今後、除却補助制度を広く周知し、安全確保に努めていただきたい。

### ②「ハイツ野いちご」の持続可能な運営について

社会福祉法人「浜中福祉会」へは6070万円を補助しているが、積立金1千万円を取り崩しながらの運営状況となっている。

「ハイツ野いちご」の職員

## 教育長の任命に同意

佐藤健二氏は、令和8年2月2日付で任期満了となることから、無記名投票の結果、全員賛成で引き続き適任と認め、任命することに同意しました。



佐藤 健二氏  
（霧多布）

不足は改善傾向にあるものの年間を通じて入所者が満床とならないことやコロナ禍以降ショートステイの利用も減少している。さらには老朽化する施設の維持管理、人件費、物価の高騰などの理由で厳しい経営となっている。

同法人には中長期的な計画を示してもらうとともに今後も持続可能な運営ができるよう支援に努めていただきたい。

## 条例の改正を議決

### □浜中町津波避難タワー設置条例の制定について

現在、琵琶瀬地区に建設中の津波避難タワーが令和8年3月1日から供用開始の見込みとなっている。

当施設の設置に関して必要な事項について定めるため、本条例を制定するもの。

### □浜中町印鑑登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例の制定について

令和8年2月1日よりサービス開始を予定しているコンビニエンスストアでの証明書自動交付サービスの導入に伴い、所要の改正を行うもの。

コンビニ等に設置されている多機能端末機による印鑑登録証明書の交付についての規定を追加しようとするもの。

### □浜中町手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

コンビニエンスストアでの証明書自動交付サービスは、個人番号カードを利用し、コンビニ等に設置されている多機能端末機へ所定の手数料を支払うことで、印鑑登録証明書・住民票の写しの交付を受けるため、手数料の免除規定の一部を改正するもの。

### □浜中町税条例の一部を改正する条例の制定について

「町税全般」において公示送達制度の見直しを行うほか、「町民税」において大

学生世代の子等に関する特別控除の創設、「たばこ税」において加熱式たばこの課税方式の見直しなど、法改正に伴う所要の改正を行うもの。

### □公の集会施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

湯沸会館新築工事の完了に伴い、既存の施設である湯沸母と子の家用途廃止し、湯沸会館を新たな湯沸地区の集会施設として定めようとするもの。

また、新しい集会施設である湯沸会館は、木造平屋延床面積113・57㎡の建物で、建設地を津波災害警戒区域外としたことで湯沸地区の集会の用途に加え、下海岸地区の指定緊急避難場所としての機能も兼ね備えた施設として使用していくもの。





# 一般質問

田 甫 哲 朗 議員

問

街路灯のLED化は

答

計画的に取り組みたい

**田甫** 公共施設照明のLED化を2カ年計画で進めているが、目的・効果と事業費および進捗状況は。

**町長** 52施設8927灯をLEDにすることで、消費電力量が年間52万kw削減され（蛍光灯の約3分の1）二酸化炭素の排出削減につながり、脱炭素社会の実現に寄与するとともに電気料金も年間2千万円以上削減

**田甫** 同様の目的から街路灯のLED化を図る考えは。

**町長** 町が管理する街路灯数は、301基あり約4割の114基がLEDである。次年度以降、年間20基程度を予算化し順次改修していきたい。

また、19の自治会・町内会が管理する防犯灯は、645灯あり370灯（約57%）がLEDである。これは、約半数の自治会が自主的・計画的に地域振興補助を活用し改修を実施してい

できる。また、2年後には蛍光灯の製造・輸出入の禁止が国際的な条約で決まっており、全国的な需要増加により器具の不足や人件費の増により価格高騰の可能性もあることから早期に実施するもの。

総事業費2億7610万円を10年間のリース契約で実施し、期間中の維持管理は受注業者が担う。

7年度中に42施設（8割）が完了予定で、8年度残る10施設を実施する。



明るくなったLED防犯灯

ることにによる。

近年、改修費用（器具＋工事費）が増加傾向にあることから、他の自治会・町内会へLEDのメリット（電

気料の削減・長寿命・明るさの増）などを説明し取り組みを促していく。各地域の現況は表のとおりである。

自治会・町内会名	管理灯数	LED灯数	改修率%
霧多布一新会	25	1	4.0
霧多布樹徳会	7	1	14.3
霧多布中央会	25	1	4.0
霧多布共和町内会	5	0	0.0
水取場町内会	10	1	10.0
湯沸自治会	14	14	100.0
暮帰別町内会	37	0	0.0
新川自治会	33	33	100.0
琵琶瀬自治会	97	41	42.3
渡散布自治会	18	7	38.9
火散布自治会	47	12	25.5
丸山散布自治会	33	7	21.2
藻散布自治会	23	19	82.6
榊町自治会	43	36	83.7
奔幌戸自治会	22	22	100.0
貫人自治会	10	0	0.0
浜中市街親交会	45	35	77.8
姉別地区連合会	27	18	66.7
茶内自治会	124	122	98.4
合 計	645	370	57.4

# 一般質問

渡部 貴士 議員



問

## 再エネ導入における町の判断基準は

答

## 自然環境と基幹産業を守りながら進める

**渡部** 再生可能エネルギーの導入は、地域に利益をもたらす形で進むべきものであるが、国の制度を背景に急速に拡大した結果、大規模事業者が地方に進出したことで自然や景観が損なわれ、地域住民の声が十分に反映されない事例が増えている。浜中町は、霧多布湿原ナショナルトラストをはじめとする町民の自主的な努

力により自然を守り続けてきた全国的にも貴重な地域であり、自然と暮らしを守るという明確な意思があったからこそ、現在の霧多布湿原が守られている。

再エネの導入において、国や企業の都合ではなく浜中町が主体的に判断できる仕組みが必要だと考える。また、分散スキームにより大規模化することへの対応は。

**町長** 町内には

FITの認定を受けた10kw以上の太陽光発電

施設が215箇所あり総量は1万728kwである。

基幹産業を守るためにも自然環境を侵してまで再生可能エネルギーを設置するべきでないと考えている。

分割案件への対応は、一



民間活動によって守られてきた霧多布湿原

般送配電事業者により厳正に審査されているが、そのような業者が入らないように取り組みを進めたい。

**渡部** 耐用年数経過後に放置させないリスク回避の取り組みと今後、新たに津波

浸水域に太陽光パネルを設置することへの対応は。

**町長** 再エネ設置条例で定める撤去および処分に関する計画書に基づいて対応してもらおう。

また、パネルの新たな設置に関しては津波発生時のリスクを踏まえ、庁内で協議していきたい。

**問** パパママ座談会での意見への回答は

**答** 座談会で回答しながら進めたい

**渡部** パパママ座談会で出された意見への回答とオンライン化など継続的な仕組みは。

**町長** お子さんの年齢により様々だが保育や医療、学校に関する意見や提言が多かった。座談会での回答と担当課に伝えるべき事項は速やかに進め、改善に向けた取り組みを行っている。

対面で保護者の声が聴きたいという思いからの座談会開催となっている。その他にも地域イベントに赴いて話を伺い町政に反映していければと考えている。





# 一般質問

成田 良雄 議員

問

避難所の通信確保および  
保健衛生環境の整備を

答

回線事業者と締結し対応  
トイレカーは検討

**成田** 能登半島地震では、電線や地中に埋設された光ケーブルなどが断線し、多くの基地局が機能を失い、救助や復旧作業に甚大な影響が出ました。

また、保健衛生環境の整備について、地震で高齢者や要配慮者が数多く被災したことを踏まえ、国は災害対応対策に「福祉的な支援」の必要性があると明記した。

以下質問する。

① 発災後に通信設備の被災状況把握や通信手段の確保を検討すべきでは。

② 外国人就労者が増えている状況の中、多言語での対応が必要では。

③ 指定避難所の保健衛生環境の整備として、簡易トイレに加え、仮設トイレやトイレカーの設置は。

**町長** ① 現在使用している電話回線および光回線が災害時に通信途絶した場合、回線事業者が状況把握や復旧作業を実施している。

また、災害時相互に協力するため、NTT東日本と令和6年5月に協定を締結した。

② 現在、町の防災行政無線システムでは、言語変換ができないことから、今後の検討課題としたい。

③ 簡易トイレは各避難所に設置済み。トイレカーは町財政を見極めて今後検討したい。



近年、避難所で使用されるようになったトイレカー

問

防災担当に  
女性職員を

答

会議メンバに  
女性増員

**成田** 内閣府は、女性がリーダーシップを発揮しやすい体制の確立、女性の能力や意見を生かせる場を確保

することや自治体の防災担当職員に女性を積極的に登用することを推奨しているが考えは。

**町長** 防災会議委員の女性割合を30%にするよう努めたい。

# 吉祥

## 「浜中学」を学んで

霧多布高等学校3年A組

船柳 志琉<sup>しりゅう</sup>

私は、3年間の総合的な探究活動の中で、多くのことを体験し学びました。特に、3年生の時は「ICT」と「教育」について探究しました。浜中町のICT教育の実情と課題を明らかにするために探究活動が続いています。

その中で、論理的に考える力や情報を正しく扱う力そして協働の大切さを実感しました。探究活動は、自分の興味関心や将来の進路から関連のあるテーマを選ぶところから始まり、資料を集め、整理し、結論にまとめるという一連の過程を

経験するものでした。

調査を進める中で、私はまず「この情報は本当に信頼できるか」を意識して資料を選ぶようになりました。同じテーマでも、発信者によって内容が異なったり、根拠がはっきりしていなかったりすることもあり、情報をそのまま受け取るのではなく、疑問を持ちながら読み取ることの大切さを学び、情報を正しく扱う力が身についたと感じています。このことを意識できたのは、授業で習った批判的思考力と情報リテラシーの知識があったからだと思います。また、集めた情報をどのように順序立てて説明するかを考える過程では、班のメンバーと意見を出し合いながら進めることで、協働することの大切さも学びました。自分一人では気づけない視点や考えを仲間が補ってくれることで、理解の浅い部分を補完し、論理的に考え、自分の考えを整理して伝える力が、さらに深

まることを実感しました。

浜中学報告会では、自分なりにまとめた内容を発表しましたが、説明が不十分な部分や伝わりにくい部分もあり、他の班の発表から多くを学ぶことができました。3年間の探究活動を通して、「情報を正しく選び、整理し、論理的につなげて伝える力」に加え、「仲間と協働して互いの弱点を補いながら学ぶ力」が、浜中学は単純な地域学習だけでなく将来社会で求められる力につながると感じました。

今後もこの経験を生かして、より深く物事を考え、正確に伝える力を伸ばし、チームで協力して成果を出す力も高めていきたいと思っています。

### ● 揮毫

1年A組  
上野未結さん

### ● 読み方

吉祥  
(きつしょう)

### ● 意味

良い兆しのこと



## 町のトピックス



### 第1回浜老連モルック交流会

12月6日撮影

令和7年12月6日、総合文化センターで第1回浜老連モルック交流会が開催されました。モルックは、倒したピンの本数またはピンに書かれた点数を足していく競技で、作戦や技術が求められます。約90人が集まり、大盛況な大会となりました。

この欄に掲載するまちの季節の写真をお寄せください。  
次回の発行は令和8年4月15日です。

町のトピックス(話題)を  
募集します!

ご応募はこちらへ 浜中町議会事務局 E-mail: gikai@town.hamanaka.lg.jp TEL: 62-2265